

第4回 APCTP 日本委員会会合

日時：2006年7月1日（土）午後2時より午後4時まで

場所：理化学研究所（和光）研究本館4階 435号室

出席者：菅原寛孝（委員長、総研大）、小林誠、北澤良久（KEK）、九後太一、二宮正夫（京大基研）、永長直人（東大）、藤川和男（日大）、岡真（東工大）、河本昇（北大）、横山順一（東大）、川合光、古崎昭（理研）（以上順不同）

欠席連絡：上田和夫（東大物性研）、佐藤勝彦（東大）、矢崎紘一（東女大）（順不同）

事務局：多田司（理研）

議事次第：

承認：

1. 前回議事録承認

2005年7月30日に開催された第3回 APCTP 日本委員会会合の議事録を承認した。

報告：

1. 菅原委員長より 2005 年分メンバーシップフィーの支払い状況について報告された。

2. 2005年12月3日に開催された APCTP General Council の Meeting について、出席した河本委員から報告された。また、過去における各メンバー国からのメンバーシップフィーの支払い状況を正確なデータに基づき確認した。

3. 2005年12月3日に開催された APCTP Board of Trustees の Meeting について、出席した藤川委員から報告された。APCTP および韓国内では、Web-journal に関してかなりの期待感があるようだとの報告もあった。

4. その他の APCTP の活動状況について、Executive Director の Swan Kim 氏の report 等が紹介された。

5. 理化学研究所での APCTP に関する状況が事務局より報告があった。

議事：

1. 2005 年度のメンバーシップフィーの支払いに関する経験を踏まえて、今後の支払い方法について意見の交換がなされた。その結果、関係する研究機関と APCTP の間での、実質的な研究交流の促進も含めて、合同協定締結等の可能性を探ることが第一とされた。今後、各研究機関の内部および研究機関の間での議

論を深めて、メンバーシップフィーの支払いに関する永続的なスキームの実現を目指していくことになった。また、APCTP 日本委員会が名目的な日本の代表としてメンバーシップフィーを取りまとめて支払う可能性等も、関連各機関や APCTP が合意するならばありうるひとつの解として議論された。

その他：

1. 2007 年の春に任期が切れる現所長の Laughlin 氏の後任として、APCTP 次期所長候補者の選考が APCTP の関係者で構成された選考委員会で開始されているが、この件についての報告およびそれに関する懇談があった。
2. APCTP を軸とした韓国との物理学における全般的な協力、および中国を含むより広い視野でのアジアのこの地域での今後の協力関係と日本の役割に関して、自由な意見の交換があった。

事務局注) 今回の会合の通知を上記出席者および欠席連絡者の他に、下記の各氏に行った：

益川敏英 (京産大)、土岐博 (RCNP)、赤石義紀 (理研)、福山秀敏 (理科大)
これに対し福山氏よりは委員を今後辞退したい旨連絡があった。